

# 戸別受信機

## いち早く正確な災害情報を

災害は私たちに突然襲いかかってくる。

被災地では情報が混乱し、そこにいる人々がパニック状態に陥ることも少なくありません。

市では災害が起きた時、いち早く正確な災害情報を市民の皆さんへ伝えるために、防災行政無線を整備しています。

# 非常事態の時は、自動で最大音量に。

## 乾電池の交換時期を確認して

戸別受信機は家庭用コンセントで作動しますが、停電時には自動的に内蔵の乾電池が電源に切り替わります。そして、避難時などに持ち運ぶこともできます。しかし、日ごろコンセントにコードを差して使っている、この乾電池は徐々に消耗しています。

停電時などに、作動時間を長くするために、年に1回は乾電池を交換してください。

お持ちの機種によって異なりますが、放送前後に「ピーピー」と音が続く、または電池切れのランプが赤色に点滅するなどの現象は、乾電池の交換時期となりますので、ご注意ください。

戸別受信機の機種は、お住まいの地域などにより異なりますが、基本的な性能や取り扱いは同じです。また、市内で転居する場合は、受信機の「地区別コード」の変更を行う場合があります。詳しくは各総合支所地域支援課にお問い合わせください。

電源は「入」に！

ピーピーと音が続くなど、電池切れに注意！

## 音量は調整できます

防災行政無線は、防災や災害時の緊急放送だけでなく、市からのお知らせ（行政広報）も定時に放送していますので、ぜひお聞きください。

また、ボリュームは聞きやすい音量に調整して聞いてください。非常事態の時は、この調整に関係なく、最大音量になります。



潮沢区  
自主防災会長  
まさる  
宮下 勝さん  
(明科東川手)

## 「災害発生時は、情報が命綱に！」

平成19年7月の長久保地滑り災害では、防災行政無線により、避難勧告が発令されました。避難所となった明科の「あいりす」には放送から30分後に20人、2時間後には78人が避難しました。

「緊急放送も大変に役立ちましたが、さらに大切なのは地域のコミュニケーションではないでしょうか」と話すのは潮沢区自主防災会長の宮下勝さん。「外にいれば無線放送が聞こえない可能性もあります。災害発生時には隣組の連携が大事だと痛感しました」と振り返ります。さらに「普段顔見知りになっておくことでさまざまな情報が入ってきます。地域の催しなどでコミュニケーションを図ることも、立派な防災になると思います」と話してくれました。

## 平成22年度にJ-ALERTを導入

### 緊急事態発生！ 自動で緊急情報を伝えます。

市は来年度、全国瞬時警報システム（J-ALERT：ジェイアラート）を導入します。

このシステム（J-ALERT：ジェイアラート）は、緊急地震速報や武力攻撃などの国民保護事象が発生した場合、通信衛星を介して国（消防庁）から市に直接情報が送られ、防災行政無線が自動起動し、市民の皆さんに瞬時に情報を伝達することができるシステムです。伝達内容など詳しくは、改めてお知らせします。